

茶病虫害防除情報

【第 16 号】

令和3年8月17日

前線停滞で記録的な大雨・降雨持続

鹿児島県経済連・肥料農薬課

秋芽生育期の緊急病虫害防除対策

今年産本茶も終了し、秋芽生育期となりましたが、8月11日以降前線の停滞で、全国的に梅雨末期のような記録的大雨被害と降雨持続の気象になり、今後も暫く続く予報です。

来年産茶のために重要な秋芽は、浅刈り、深刈り更新などで様々ですが、概ね萌芽～生育期状態と思われます。このような気象状況のため秋芽の病虫害防除は計画どおり実施できていないところが多いと思われます。まず天候が回復しましたら直ちに防除に努めて下さい。特に降雨持続で、炭疽病など病害の多発生が懸念されますので、「やぶきた」園などは適切な防除に努めましょう。このような降雨持続状況の場合は第14号でお知らせしましたが、ダコニール1000とDMI剤の混用散布が最も効果的ですので実施してください。

今後発生が懸念される病虫害と防除対策

◎ 炭疽病 新梢枯死症 網もち病・・・多発生の恐れ 混用散布など適切な防除

炭疽病は、秋芽生育中の園では降雨が続いたため既にかかり感染していることが推察されます。このような園は降雨が上がりましたら早速ダコニール1000とDMI剤との混用散布（2-4葉期）を実施しましょう。まだ萌芽前の園では萌芽-1葉期、3-4葉期の体系防除または混用散布防除法を進めてください。また、昨年多発した網もち病は8月下旬～9月上旬頃の降雨や湿潤な天候で感染しますので8月下旬以降も台風や秋雨前線の影響などによる天候に留意し、これまで発生の多かった地域や園では銅剤による補完防除が必要です。

◎ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ マダラカサハラハムシ・・・降雨明け後の早期防除

園内の密度は高い状態でしたが、降雨持続で増殖、被害進展は停滞しています。萌芽期の防除ができていない園が多いと思われますので、天候が回復したら直ちに防除します。また、マダラカサハラハムシの発生も局地的にみられています。萌芽生育初期に同時防除します。

◎ コカクモシハマキ チャハマキ チャノボリカ ヨモギエダシヤク・・・若齢幼虫期の適期防除

現在のところ発生は平年並みかやや少ない状況ですが、例年この時期から最終世代に多発する傾向があります。発生の多い地域では茶園観察を行い、若齢幼虫期に防除します。

◎ カンザワハダニ・・・速効性薬剤で防除

カンザワハダニは更新園を主体に一時的に増加していましたが、降雨持続で増殖はやや停滞していると思われます。発生園は早期に全ステージに効果のある速効性の薬剤で防除します。

◎ クシロカバラムシ チャトゲコジラミ・・・ふ化後若齢期の適期防除

クシロカバラムシの第3世代発生はこれまでの第2世代発生の経過などから昨年よりやや早く、9月上中旬がふ化最盛期になるようです。発生は少ないですが、発生園はふ化最盛期の適期防除が必要です。チャトゲコジラミは全地域に発生が拡大し、増加しています。第3世代の防除時期は8月下旬～9月上旬になるようで、チャノミドリヒメヨコバイなど他害虫と同時防除します。

秋芽生育期の病害虫薬剤防除法

対象病害虫	防除時期	防除薬剤	希釈倍数	使用基準
炭疽病 網もち病 新梢枯死症	秋芽萌芽直前園 (萌芽-1葉期)	ダコニール 1000	700~1000 倍	10 日前 1 回
		フロンサイト SC	2000 倍	14 日前 1 回
	秋芽生育中期園 (2-4 葉期) 混用 1 回散布法 (降雨明け直ちに)	インターフロアブル オンリーワンフロアブル	5000~8000 倍 2000~3000 倍	7 日前 2 回 7 日前 2 回
上記 2 薬剤の何れかと ダコニール 1000 混用散布		700~1000 倍	10 日前 1 回	
網もち病	秋芽生育後期 (4-5 葉期)	クプロシールド	1000 倍	3 日前 -
		コサイト 3000	1000 倍	14 日前 -
		アシトール L フロアブル	500 倍	14 日前 -
		Z ボルト	400~500 倍	7 日前 -
チャノミトリヒメヨコハシ チャノキイロアザミウマ	秋芽萌芽期	コテツフロアブル	2000 倍	7 日前 2 回
		エクシレル SE	2000 倍	7 日前 1 回
		テッパ ン液剤	1000 倍	3 日前 1 回
	秋芽生育後期 (3-4 葉期)	ガンバ 水和剤	1000~1500 倍	14 日前 1 回
		スタークル顆粒水溶剤	2000 倍	7 日前 2 回
		グレースシア乳剤	2000 倍	14 日前 1 回
チャノコカクモンハマキ チャハマキ チャノホソガ ヨモギエダシヤク	若齢幼虫期 (潜葉幼虫期)	ファルコンフロアブル	4000~8000 倍	7 日前 2 回
		ディイナ SC	2500~5000 倍	前日 1 回
		アファーム乳剤	1000~2000 倍	7 日前 1 回
		エクシレル SE	2000 倍	7 日前 1 回
		アグリメック	1000 倍	7 日前 1 回
		スピノエースフロアブル	2000~4000 倍	7 日前 2 回
カンザワハダニ	発生初期	ダニサラハ フロアブル	1000~2000 倍	7 日前 2 回
		マイトコーネフロアブル	1000 倍	14 日前 1 回
		アグリメック	1000 倍	7 日前 1 回
マダラカサハラハムシ	秋芽生育初期	コテツフロアブル	2000 倍	7 日前 2 回
		エクシレル SE	2000 倍	7 日前 1 回
クワシロカイガラムシ	幼虫ふ化最盛期	アプロート エースフロアブル	1000 倍	14 日前 2 回
		スプラサイト 乳剤	1000~1500 倍	14 日前 1 回
チャトゲコナシラミ	若齢幼虫期	ガンバ 水和剤	1500 倍	14 日前 1 回
		アプロート エースフロアブル	1000 倍	14 日前 2 回
		ディイナ SC	2500~5000 倍	前日 1 回
		アグリメック	1000 倍	7 日前 1 回

秋芽生育期に発生する病害虫



秋芽に多発した炭疽病



網もち病発病状況 (11月頃)



冬季に葉枯症状となった網もち病



ヨモギエダシヤク 被害葉



ヨモギエダシヤク 成虫と老齢幼虫



チャトゲコソジラミ 幼虫寄生状況



マダラカハラムシ 被害葉

被害枝梢